災害弱者・要支援者と一緒に考える「おおさか未来の防災」
映画「いつか君の花明かりには」上映会とフィルムトークに寄せられた
みなさんの声・想い

Q：映画の中で印象に残った場面はありましたか？

桜ライン311代表の「とにかく生き延びること。あの時なにもできなかったことが悔しい、同じことを繰り返したくない」という言葉。

自分は大丈夫と思う心理の危うさ。「防災以外にお金を使いたい」はみんなが思うこと。だけど、防災の大切さを社会で共有していける世の中にしていきたい。

部活として防災に取り組んでいる徳島の中学生たちの明るく溌剌としている様子。

「この子に防災の大切さを伝えたい」という思いで活動している熊本のお母さんの姿に共感した。母として子どもにも防災の大切さを伝えなければと思った。

桜ライン311代表の「とにかく生き延びること。あの時なにもできなかったことが悔しい、同じことを繰り返したくない」という言葉。

災害や防災の話はあまりしたくない、聞きたくないという人が多いが災害の恐ろしさを「知らないことこそが怖い」と思った。

大切な人を守るために防災をすること。

Q：フィルムトークで印象に残った言葉はありましたか？

小川監督の「自分の街は大丈夫」という考えが一番危険だというお話。
大阪の人には特に当てはまると思う。油断が怖いということを知った。

災害はいつ起こるかわからない。いつでもどこでも起こる。

大災害は一生に一度とは限らない。

防災は他人事ではない！

小学生防災士さんや福島で災害に遭われた方、被災地支援をされているアーティストの方、映画を作られた方、それぞれの立場でのお話が意味深いものだと感じた。

無断転載はご遠慮ください© ママコミュ！ドットコム

Q：災害弱者、要支援者と共に助かるには何が必要だと思いますか？

弱者のために懸命に働く人がいること、気にかけてくれる人がいることを伝えることが大切だと思った。あなたの命はみんなの命でもある。

普段からの付き合い。小さい子からお年寄りまでお互いに思いやりと関心を持てる関係づくり。ちびっこ防災士さんが言っていた挨拶も防災の一環！

自助から共助に映る心構え。普段から防災の大切さを理解できるか。

阪神大震災を経験して怖くて大変な思いをしたことを覚えているので、コミュニティのつながりの大切さを実感している。
地域の行事や防災訓練も地域の人と触れ合える大切な場だと思う。

地域で声を掛け合うこと。

地域の人に自分の存在を普段から知ってもらう。

正直難しい。

地域の弱者・要支援者の情報を確認すること。

Q：その他のご意見、ご感想

桜の花が咲いて周りがほのかに明るくなることが花明かり。
防災においては一人ひとりが花明かりにならねばならない。

来てよかった。

私も子ども達に地震や災害の怖さを伝える活動をしていきたい。

映画に出てくる街中の人のような考えを私も持っていました。少なくとも災害について知る、考えることから始めたいと思います。

桜ライン311や中学生の活動を知り、フィルムトークでは様々な立場からのお話を聞けた。来てよかった。心があたたかくなった。

防災啓発ドキュメンタリー映画
「いつか君の花明かりには」
上映会＆フィルムトーク

2019年3月9日(土)13:10〜14:40
阿倍野区民センター　大ホール
主催：ママコミュ！ドットコム

無断転載はご遠慮ください© ママコミュ！ドットコム